



R4.5.31 発行

やぁやぁ図書館の扉だよ(某ひろゆき風)

皆さん、図書館の扉をしっかりと読んでいますか？

まあ読んでいなきゃこの文章自体を知られることはないんですけどね…(布教してくださいお願いしますガチでお願いします何でもはしないけどお願いします)

さて、今回の図書館の扉では新任の保健室の先生のおすすめ本を紹介します。保健室の先生と仲良くなりたい思春期のみなさん！必読です！ぜひ、お楽しみください！

きみの友だち

重松清

「いなくなっても一生忘れない

友達が一人いればいい」

この本を読んでいた当時は「友達とずっと一緒にいないと友達ではなくなってしまう」と思い、ずっと一緒に過ごしていました。その一方で、「いつか裏切られるのではないか」と不安に思っていました。

この本を読み、少し気持ちが楽になりましたが、それでも心のどこかで「一生忘れない友達が一人いれば良いなんて、そんなはずない」と思っていました。しかし、大学生・社会人になるにつれ、この考え方がよくわかるようになりました。人間関係で悩んでる人、友達って何だろうと思ってる人に読んでほしいです。

松永先生



夏川 草介 Sosuke Natsukawa



小学館文庫

神様のカルテ

神様のカルテ

夏川草介

「病むということはとても孤独な言葉です。病いの人にとって、最も辛いことは孤独であることです。先生はその孤独を私から取り除いてくださいました。たとえ病気は治らなくても、生きていくのが楽しいと思えることがたくさんあるのだと、教えてくださいました。」

この本を読んだから、誰かの人生と向き合ったり、誰かの生活を支えたりする仕事に就きたいと強く考えるようになりました。どこで迎えるか分からない最期の時をこの主人公のような素敵な医療者の元で迎えられたら、それだけで幸せな人生であったと言えるのかもしれませんが。看護の道に進んでからも時々この本を読み返し、自分の生き方を見つめ直していました。人に寄り添う気持ちを思い出させてくれる優しくあたたかい一冊です。

市川先生